

平成25年度は、延べ24地域に対し、以下の19名（延べ24名）の地域活性化伝道師を派遣した。

※「所属」は平成26年3月31日現在のもの。

ブロック	No.	派遣先	伝道師名	所属
北海道 ブロック	1	北海道根室市	久保 智	熊野市役所水産・商工振興課 課長
	2	北海道新篠津村	猿舘 祐子	株式会社土澤まちづくり会社 代表取締役
東北圏 ブロック	3	秋田県北秋田市、有用 自生植物活用研究会	金井 藤雄	株式会社金井藤吉商店 代表取締役社長
	4	秋田県、NPO法人秋 田移住定住総合支援 センター	玉田 樹	株式会社ふるさと回帰総合政策研究所 代表取締役所長
	5	秋田県	友廣 裕一	一般社団法人つむぎや / Resource Coordinator 代表理事
	6	秋田県、秋田人変身力 会議	山本 和子	有限会社農業マーケティング研究所 所 長
	7	秋田県横手市・秋田県	吉田 修	株式会社農業生産法人伊賀の里モクモク 手づくりファーム 取締役専務
	8	岩手県遠野市、東北 「道の駅」連絡会	中澤 さかな	道の駅萩しーまーと 駅長(専務理事)
	9	最上広域市町村圏事 務組合	菅 隆	株式会社まちづくり鶴岡 企画部長
	10	福島県、福島市、各種 団体	金丸 弘美	有限会社万来社 食総合プロデューサー、 食環境ジャーナリスト
首都圏 ブロック	11	銚子青年会議所	浅尾 均	有限会社浅尾計画事務所 代表取締役
北陸圏・ 中部圏 ブロック	12	三重県志摩市	金丸 弘美	有限会社万来社 食総合プロデューサー、 食環境ジャーナリスト
	13	富山県富山市、富山県 中小企業青年中央会 等	林 弘樹	ものがたり法人 FireWorks 映画監督、プ ロジェクトデザイナー
	14	三重県志摩市	林 弘樹	ものがたり法人 FireWorks 映画監督、プ ロジェクトデザイナー
	15	富山県立山町	山口 祥義	株式会社JTB総合研究所 主任研究員
中国圏 ブロック	16	山口県周南市	阿部 眞一	岩村田本町商店街振興組合 代表理事
	17	島根県奥出雲町、奥出 雲町商工会	横石 知二	株式会社いろどり 代表取締役
	18	岡山県岡山市	田城 孝雄	順天堂大学スポーツ健康科学部健康学科 教授

四国圏 ブロック	19	高知県室戸市	友廣 裕一	一般社団法人つむぎや / Resource Coordinator 代表理事
	20	香川県丸亀市	斉藤 俊幸	イング総合計画株式会社 代表取締役
	21	愛媛県八幡浜市	中澤 さかな	道の駅菰しーまーと 駅長(専務理事)
	22	愛媛県今治市	友廣 裕一	一般社団法人つむぎや / Resource Coordinator 代表理事
九州圏・ 沖縄県 ブロック	23	鹿児島県肝付町	柴田 敏郎	独立行政法人医薬基盤研究所 薬用植物資源研究センター 客員研究員
	24	阿蘇市等	米田 雅子	慶應義塾大学 特任教授

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	水産物加工を活用した地域活性化について	相談主体	根室市
派遣伝道師	久保 智	ブロック名	北海道
相談内容	<p>○ 根室市では、基幹産業が水産業と酪農業となっており、特に水産業では「さんま」を中心に国内でもトップクラスの水揚高を誇る漁業の街であります。</p> <p>しかしながら、漁獲高の低迷を始めとした様々な要因により、必ずしも地域経済が活性化しているとは言えない。</p> <p>このような中、今後の地域経済の活性化のためには、産業振興が最重要課題であり、課題解決に向けた取組方等についてご教示願いたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年11月8日 北海道地方連絡室 地域活性化施策等説明会及び地域活性化相談会にあわせて地域活性化伝道師の久保智氏を招聘し、相談会にて根室市との意見交換を行った。</p> <p><根室市></p> <ul style="list-style-type: none"> ・根室市の基幹産業は漁業と酪農であり、特に水産のまち根室として水産業には力を入れてきた。 ・しかし、近年水揚量の減少などにより、二次加工品の原料などが確保し難い状況になってきており、全体として勢いがなくなりつつある。 ・根室市としても水産加工業を中心とした2次産業の振興は地域経済に向けて大きな課題であり、6次産業化の推進についても、今後の課題となっている。 <p><久保伝道師></p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊野市も水産業が主力産業ではあるが、後継者がいないことが問題となっている。 ・単に少子化が原因ではなく、漁師の親が子供に漁業を継がないでほしいという思いから後継者が不足しているケースが多く、仮に漁業を継いだとしても、設備投資などの経済的な負担から事業を継続し難い状況である。 ・後継者が育たない(子供が継がない)最大の理由は、魚価が低く採算がとれないこと。このことから熊野市では魚に付加価値を付けて魚価を上げる対策として、活け締めなどによる鮮度保持などに取り組むとともに、新しい衛生管理市場の建設を行った。また、残渣が残らない素材提供ができる1.5次加工施設の整備も検討している。 ・資源保護の観点からは、漁礁等の基盤整備の外、海上保安庁等関係機関と連携した密漁の取り締まりにも力を入れている。 ・また、加工品等商品開発については、事業者任せにせず市が主体となって事業者と連携しながら進めていて、その一つが「さんま魚醤」である。その結果売れる商品ということが認知されると他の事業者も追随する動きもあり、異業種の連携による商品づくりもいくつか見えてきた。 ・6次産業化においては、異業種の活用など現状の販路にこだわらない新たな販路づくりや、自己満足ではない消費者ニーズに沿った商品づくりが必要。 		
成果	<p>○根室市、熊野市はともにさんまを主力とした水産業のまちであり、それぞれの抱える問題点や課題については共通項も多く、2次加工品の開発等に関するノウハウについても意見交換の場を設けることができた。</p>		
課題	<p>○地域活性化相談会の場を借りて今回意見交換を行ったが、実際に現地で課題を抱える人々との交流・接点を持ってより緊密なアドバイスや意見交換の場を設けることを検討することも必要であると考えられる。</p>		
今後の方針	<p>○今後も適宜フォローアップを行っていく。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	地域活性化	相談主体	北海道新篠津村
派遣伝道師	猿舘 祐子	ブロック名	北海道
相談内容	<p>①諸事情により、村の中心市街地に空き店舗ができた。現在、村の空き地空き家に所有者登録をしているが、買い手希望者がいない状況です。総務省の地域おこしアドバイザーなどの地域活性化施策を視野に入れながら、活路を模索したい。</p> <p>②様々な地域活性化施策があるが、本村の状況に即応した施策があるかなどもご相談できればと思う。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年11月8日(金)13:30~14:00 地域活性化相談会(北海道庁)において次の助言があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗対策だけ行っても、商店街として長続きしない。大きなスパンで商店街の将来を見据えて活用方法を考えないと、補助制度を活用しても続かない。 ・商店街で共有できる将来の方向性がしっかり確立していれば取組は進む。 ・新篠津村では自然農法を取り入れた農業を行っている。これを商店街の活性化に如何に巻き込むかがポイント。地元岩手では売るまで行う6次農業で生産者たちは疲弊している。売るのは商店街の役割なのだから、商店街を活用すべき。 <p>○平成25年11月8日(金)15:05~15:25 地域活性化施策等説明会での講演(北海道庁)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む地元岩手県花巻市の土沢地区における商店街の取組について紹介。 ・地域づくりは、地域でどう暮らしていきたいかが基本。その実現のために、できることを見つけ出し、高齢者であってもできる人ができることから取り組む姿勢が重要。 		
成果	<p>○猿舘伝道師の地元商店街が抱える課題と共通する点が多かったことから、新篠津村は有効な助言を得ることができたと評価。さらに具体的な助言を得るため、新篠津村商工会の研修会への参加要請があった(本人快諾)。</p>		
課題	<p>○猿舘伝道師の地元商店街も抱える後継者問題等について問題意識を共有。新篠津村商店街にとっては、今後、農業を如何に巻き込んでいくかが課題。</p>		
今後の方針	<p>○今後も適宜フォローアップを行っていく。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	地域資源の活用	相談主体	・有用自生植物活用研究会 ・秋田県北秋田市
派遣伝道師	金井 藤雄	ブロック名	東北ブロック
相談内容	秋田県北秋田市管内の「有用自生植物」を活用した新たな「地域資源活用型ビジネス」の創出と地域づくりへの展開について		
相談への対応内容	<p>○平成25年6月8日(土)(1日目)</p> <p>金井伝道師による講義(対象:有用自生植物活用研究会) 《テーマ》「生薬の栽培と生産について」(座学主体の勉強会)</p> <p>・講義内容</p> <p>①生薬栽培の歴史 ②生薬栽培の基本 ③収穫及び収穫後処理 ④園地造成に関する留意点 ⑤遺伝子資源探索方法</p> <p>○平成25年6月9日(日)(2日目)</p> <p>金井伝道師による現地指導、遺伝子資源探索</p> <p>・栽培容易品目の試験栽培指導 生薬栽培の勤どころを会得するための題材として「チリメンソ」を取り上げ、「園地調整」及び「播種」作業の指導を行った。</p> <p>・遺伝子資源の探索 前日の勉強会の席上において情報提供のあった野生生薬について現地を視察し、個体及び存布状況を確認した。</p>		
成果	<p>○生薬栽培の厳格性について、理解を深めることができた。</p> <p>○足元の地域資源の有用性について、再認識することができた。</p>		
課題	<p>○生薬・健康食品ビジネス化に向けた諸課題の抽出と整理検討</p> <p>○地域を巻き込む取り組みとするためのビジョン・方策等の検討</p>		
今後の方針	<p>○あくまでも民間主体の活動を基本とし、有用自生植物活用研究会(任意団体)が試験栽培を含むビジネス化に向けて全面的に担う。</p> <p>○北秋田市は、同研究会から側面支援の要請があった場合は、対応について協議する。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	空き家の利活用について	相談主体	・NPO法人 秋田移住定住総合支援センター ・秋田県
派遣伝道師	玉田 樹	ブロック名	東北ブロック
相談内容	<p>○ 空き家の有効活用による地域づくりを提唱している伝道師より、空き家の全国的な現状や先進事例の紹介、今後の展開方向などについて指導を行うことにより、移住・定住の推進や地域づくり等の関係者の意欲喚起を促し、地域活性化につなげることを目的とする。</p> <p>○秋田県における空き家対策についてのアドバイスをいただきたい。</p> <p>○藤里町においては、空き家対策等に係る具体的指導を行う。</p>		
相談への対応内容	<p>○6月18日(火) 14:00～ 講演(秋田市にぎわい交流館AU(あう)4階研修室) 参加者約120名 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住・定住や二地域居住を希望する人が増えている。 ・リーマンショックを経てふるさと回帰の形態は変わり、年配者においては生業の発掘、若者においては働くために移住したいという人が増えている。農水省や内閣府においても、これに関連した事業等も行われる様になっている。 ・しかし、移住希望者はいるが、住む場所がないという問題が最大の隘路になっている。 ・秋田県は、全国でも空き家率が18位で、1万7千戸の有用な資源があるが、しかしH20年以降空き家の適正管理の動きもあり、11の市町村で条例が成立しており、空き家が壊される前に有効活用の方策を具体化することが急務となっている。 ・空き家はなかなか市場にでてこないが、地方の空き家所有者の約60%は大都市に住んでおり、6割は貸したいと思っている。市場化の盲点はここにあり、これに注目すべき。 ・ふるさと回帰者は、70%が空き家を借りたいと思っているが、水回りの改修は不可欠である。家主の負担にならない改修方法の開発が必要である。 ・上記を踏まえ、改修の問題点の解決策を含めた、モデルが提示された。(低廉な空き家改修モデル、宅建業者との連携によるモデル、大都市に住む空き家所有者への周知のモデル、空き家開拓のための中間組織のモデル、空き家管理・ふるさと誘致の資金確保モデル、等) <p>○6月19日(水) 10:00～11:00 (秋田県、藤里町への指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県内等における空き家の状況を紹介した上で、各種アドバイスをいただいた。 ・行政代執行や寄付の事例を現在積み上げて、議連にあげていくこととした。 ・空き家解体後の空き地の利活用方法について、各種アドバイスをいただいた。 		
成果	<p>○秋田県において、中心的な活動をしている、NPO法人秋田移住定住総合支援センターに対し、有効な指導をいただいた。</p> <p>○秋田県においても、今回の伝道師派遣をきっかけに、空き家対策の方法をご教示いただいた。</p> <p>○自治体参加者においては、空き家バンク等への登録について、固定資産税の通知等の裏面に入れるなどして、空き家所有者への周知を図る方法をご教示いただき、今後活かされると考えられる。</p>		
課題	<p>○今後の法整備等も含め、秋田県内における空き家の適正管理及び民間と自治体の連携による、空き家を活かす体制の構築が重要</p>		
今後の方針	<p>○空き家に係る法整備の状況を見計らいつつ、県内において、空き家を活かす体制を構築していく。</p> <p>○今回の指導をきっかけとした、伝道師による、NPO法人秋田移住定住総合支援センターへのアドバイスの継続や情報交換。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	地域内資源の活用について	相談主体	秋田県
派遣伝道師	友廣 裕一	ブロック名	東北ブロック
相談内容	<p>○秋田県では、少子高齢化や人口減少に対応していくため、地域内の資源をいかに活用していくかということが県内市町村共通の課題となっている。地域活性化統合事務局の所管制度を県内市町村の担当者に周知し、各種施策を活用してもらうため、説明会の実施を検討しているが、それに合わせた形で、同じ東北地方の石巻市において地域資源を生かした取り組みを行っている友廣伝道師から、具体的な事例を紹介して欲しい。</p>		
相談への対応内容	<p>○地域活性化施策に関する説明会 日時:平成25年7月16日(火) 14時～ 場所:秋田県庁第二庁舎8階大会議室 内容:地域活性化統合事務局の東北ブロック担当者による所管制度の説明 参加者:秋田県内市町村担当者ら約30名</p> <p>○引き続き同会場において友廣伝道師による講演会を実施。 参加者:秋田県内市町村職員、NPO法人、商工会議所関係者ら約70名 演 題:「地域の資源を活用した地域活性化の取組について」 講演概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災後の石巻市(牡鹿半島)での漁村における取り組み事例を紹介。 <ul style="list-style-type: none"> →地元女性による「ぼっぼら食堂」への取り組み →地域内にある「鹿角」と「魚網」を利用したアクセサリー「OCICA」 ・最大の未利用資源は「人」であり、「人」と地域内の「資源」をつないでいくことが重要。 		
成果	<p>○地域活性化施策を担う秋田県内市町村職員および関連団体の担当者らに対し、伝道師が携わった具体的な成功事例を紹介することにより、意欲喚起することができた。</p>		
課題	<p>○市町村等においてどのようなニーズがあるのか把握していく必要がある。</p>		
今後の方針	<p>○地域から要請があった場合は、コンサルティングの実施や伝道師の派遣の検討を行う。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	6次産業化の促進について	相談主体	・秋田人変身力会議 ・秋田県
派遣伝道師	山本 和子	ブロック名	東北ブロック
相談内容	<p>○秋田県内の6次産業化を目指す農家等に対する情報提供・アドバイス ○秋田県内において6次産業化に取り組んでいる人への指導</p>		
相談への対応内容	<p>○9月26日(木) 現地指導 【たまごの樹】・・・女性客が多いのは良い。・商品に対するアドバイス(パッケージ・新商品の提案)。等 【松橋ファーム】・・・売れる農産物についての意見交換。</p> <p>○9月27日(金) 講演・意見交換会 会場 秋田市にぎわい交流館AU(あう)多目的ホール 参加者 約120名 内容(講演)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化を考える上で、作物を作り、ただ出荷するという時代は終わった。 ・アメリカでは、110haの農地を持っていても、ほとんど貧乏な農家である。 ・70年代から80年代の野菜の価格と、今の日本の市場における野菜の値段はほとんど変わっていない。 ・他の国と比べても、スーパーの野菜の値段は同じくらいである。 ・中国市場、アジア市場のものが流通してきているが、日本の農家は、安全、美しい、正常な農産物を作り届ける義務がある。また、日本の農産物は信頼がある。 ・6次産業化への一つのビジネスモデルとして、「空気を売る」というポイントがある。 ・大分ではかりんとうを農家が作り売り成功した例がある(現在は様々な所が真似をし、過当競争が生じているが、それでも全体の売上は大きい) ・九州では、むしばんも人気がある。 ・加工をする事により、遠くへ持って行くこともできるようになる。 ・ブランド・エクイティの活用について。 <p>(意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化をする時、どうしても人手が必要となるがどうすれば良いか。 ⇒ボランティアとバイトの中間的な存在のボラバイトというのがある。短期間で5名ずつ程人を入れてゆき、良い人を残していくという方法もある。 ・売上を上げるコツについて ⇒目標を持つと上がる。現実的に、日ごと、時間ごとに計算し、どのくらいずつ上げれば良いかを考えると良い。 ⇒まずは、倍にしようと考えると良い。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化を目指す、秋田県内の農業者等に対し、具体的なイメージを持っていただくことができた。 ・6次産業化に取り組んでいる人において、ブランド、販売方法、新たな手法等についてご教示いただいた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県内において、6次産業化に取り組もうとしている人は、まだまだ少ない為、継続して、6次産業化のアドバイスをしていく事が重要となる。 ・6次産業化を目指す人への、秋田県における事業紹介の体制整備が必要。 		
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の伝道師のアドバイスを基に、取り組みが広がって行く事を期待する。 ・その上で、新たなアドバイス等を必要とした時は、改めて次のステップについての伝道師派遣についても検討を行っていく。 		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	地域資源の活用	相談主体	秋田県横手市・秋田県
派遣伝道師	吉田 修	ブロック名	東北圏ブロック
相談内容	<p>横手市が秋田県との協働プロジェクトとして検討を進めている、食と農の資源を活かすための6次産業化の拠点施設を整備する、「よこて食・農・観de未来づくりプロジェクト」において、6次産業化等の農業を手段とした地域振興の取り組みについて、市職員をはじめとした関係者に対し、ハード・ソフト整備に係る具体的な助言及び指導をいただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年10月18日(金)(1日目) 吉田伝道師による現地視察及び秋田県市町村未来づくり協働プログラム 横手市プロジェクト アドバイザー検討会への参加(参加者:横手市職員、秋田県職員、商工会議所職員、金融機関職員他) 《テーマ》「横手未来づくりエリアの整備構想について」 ・内容 ①現時点の構想の確認 ②今後のスケジュールの確認 ③伝道師による現地視察の結果を踏まえた助言 ④質疑応答及び意見交換</p> <p>○平成25年10月19日(土)(2日目) 吉田伝道師による講演 《テーマ》「伊賀の里モクモク手づくりファームの取組について」 ・6次産業化を成功させている自社の取組について、スライドを用い、状況や経営に取り組むときの姿勢について講演し、横手市のプロジェクトに活かすべき点等を助言した。</p>		
成果	○成功事例を紹介していただくことにより、今後の目指すべき方向性や取り組むべき課題を明らかにすることができた。		
課題	○エリアづくりに向けて道半ばであることからプロジェクトメンバーの中で常に情報を共有して意思疎通を図りながら整備を進めていくことが必要である。		
今後の方針	○地域からの要請に応じて、今後もコンサルティング等による支援を行っていく。		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	地域産業・イノベーション・農商工連携	相談主体	東北「道の駅」連絡会・岩手県遠野市
派遣伝道師	中澤 さかな	ブロック名	東北圏ブロック
相談内容	<p>東北「道の駅」連絡会では、東北「道の駅」駅長間の情報交換や意見討議等を通じ、東北「道の駅」の魅力向上に寄与をもって東北の地域活性化に寄与することを目的に毎年開催している。</p> <p>今回、特産品開発等の実績のある地域活性化伝道師を招き、地域資源を活かした特産品開発について具体的な事例紹介や指導をいただくことで、より一層の地域活性化を目指したい。</p>		
相談への対応内容	<p>平成25年11月20日(水) 会場:秋田県にかほ市内ホテル (道の駅関係者、自治体関係者、東北地方整備局等 約70名)</p> <p>【中澤伝道師による講演】</p> <p>○萩一まーとは、「近者悦 遠者来」を経営理念としている。すなわち、観光土産市場ではなく、地元市民を中心とした庶民市場を目指している。</p> <p>○売上については、年間約9億円を維持しており、首都圏への出荷額を含めば、10億円後半の売り上げとなっている。</p> <p>○萩一まーとは、地域水産業活性の多機能拠点を目指しており、「道の駅基本6機能」、「地産地消の拠点」、「地域産品の情報発信」、「食」の観光拠点、「食育の拠点」、「地域資源ブランド化」、「都市部への販路拡張」、「新規商材の開発」、「地域協働の拠点」、「若手人材の育成」を行っている。</p> <p>○それぞれのテーマについて、実際にどのような取組を行っているかを具体的に紹介。</p> <p>【意見交換会】</p> <p>・特産品開発について、・行政との連携、・情報発信、防災・災害機能の強化それぞれのテーマに分かれてグループディスカッションが行われた。</p>		
成果	<p>○道の駅の代表者に対して、地域の拠点としての道の駅のあるべき姿、地域資源を活かした商品開発、販売方法等実践に即した指導が行われた。</p>		
課題	<p>○道の駅の数是全国で1,000を超えるまでに成熟してきたが、今後はさらに、地域との連携、情報発信機能の強化が望まれる。</p> <p>○個々の道の駅の取り組みの情報を共有し、さらなる質の向上や連携した取り組みに広げていくことが望まれる。</p>		
今後の方針	<p>○今回の中澤伝道師の指導をもとに、各道の駅の個性を伸ばしつつ、さらなる発展を目指す。</p> <p>○併せて、道の駅間の情報共有体制等を引き続き整備していき、地域の発展に寄与し、取り組みが加速していくよう、連携を深めていく。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	施設の再活用について	相談主体	最上広域市町村圏事務組合
派遣伝道師	菅 隆	ブロック名	東北ブロック
相談内容	<p>山形新幹線新庄延伸に伴い整備された広域交流拠点施設「ゆめりあ」(山形県新庄駅隣接)については、オープンから14年が経過し、建物の大規模リニューアル及び機能の見直しが検討されている。</p> <p>同施設には、以前映画館として活用されていた設備があるが、現在は講演会やイベントの控室などとして使われることが多く、映画館としての機能は活かされていない。</p> <p>そこで「鶴岡まちなかキネマ」を運営し、映画館の活用による地域活性化に高い見識がある菅隆伝道師より、映画館機能の再活用の可能性についてアドバイスをいただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○現地視察および菅伝道師によるコンサルティング 日時:平成26年1月23日(木) 14時～16時 場所:ゆめりあ 会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の現状について、最上広域市町村圏事務組合より説明。 →施設内の「ホール・アベージュ」は、平成18年度まで映画館として活用されていた。 現在、施設の利活用について検討委員会を設けるなど、機能見直しに向け検討が進められている。 ・菅伝道師より「映画館を取り巻く状況について」を説明。 →鶴岡まちなかキネマの取組や、映画館経営の現状(配給システムやコスト等)について説明。 →「鶴岡まちなかキネマ」は、まちづくり施策の一環として設立されたもの。 地元商店街を巻き込んだ活動やイベント、地元発の映画製作等、地域に根差した活動を実施することにより郊外の大型シネコンとの差別化を図っている。 →現在の映画配給システムやそのコスト等を鑑みると、ゆめりあの現状の設備(1スクリーンのみ)で採算ベースに載せることは困難と思われるので、映画館再開のために大規模な設備投資を実施することについては疑問を感じる。 →最新の映画をリアルタイムに上映することは難しいが、少し前の作品であれば最小限の設備改修で上映できるようになる。また、映画だけでなく、落語や朗読会等、さまざまなイベントで利用することも想定すべき。 ・菅伝道師、最上広域市町村圏事務組合、その他関係者(新庄市、新庄市内企業)ら15名による意見交換会 →菅伝道師からの説明をベースに、ゆめりあの今後のあり方について、活発な議論が交わされた。 		
成果	<p>○地域活性化伝道師から、映画館経営の実態を具体的に示してもらうことができ、今後の施設の在り方について、映画館機能に固執することなく多目的・複合利用も視野に入れるなど、検討するうえでの大きな指針となった。</p>		
課題	<p>○今後とも圏域住民の意見を取り入れつつ、山形新幹線ターミナル駅である「新庄駅」に隣接・合築した利便性の高さを活用した交流拠点施設の在り方について、引き続き検討していく。その後、大規模リニューアルをした場合、イニシャルコストを誰が負担していくのか課題である。</p>		
今後の方針	<p>○今後取組が進展し、再度要請があった場合はコンサルティングの実施や伝道師の派遣の検討を行う。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	観光・交流、まちづくり、農・林・水産業	相談主体	福島県、福島市、各種団体
派遣伝道師	金丸 弘美	ブロック名	東北ブロック
相談内容	東日本大震災以降、福島県内では主に風評被害により「食」や「観光」といった分野で閉塞感が拭えない状況が続いているが、今回は「食からの地域づくり」について優れた知見と豊富な経験を有する金丸伝道師によって、県内の地域活性化に携わる担当者の知識を深めることで、地域活性化に対する課題の掘り起こし及び課題解決に向けた方向性を模索する。		
相談への対応内容	<p>○平成26年2月28日(金) 【金丸伝道師による講演】 ※会場: 福島県庁 参加者: 県庁、県内市町村、各種団体、地元企業ほか 約50名 ・金丸伝道師が県内担当者向けに、「まちづくり、観光・交流、地域コミュニティのヒント」をテーマに、金丸伝道師がこれまで又は現在進行形で関わっている地域活性化の取組事例を紹介した。特に、高知県観光特使を務めている経験からは、食材を通じた農家等とのワークショップの開催や、実際の予算の確保等について具体的な紹介を行った。 ・講演後、個別相談対応を行った。</p> <p>【意見交換】 ・2団体(福島市郊外の温泉地でまちおこし活動に取組むNPO法人の交流拠点、被災地の食を活かした加工品の生産に取組む一般社団法人の販売拠点)を直接訪問し、意見交換を行った。</p>		
成果	○特に震災による影響という観点では、即効性のある解決策というのは困難である一方で、他地域の取組みからもわかるように、発想の転換をやアプローチの見直しを少しでも行うことによって、課題解決の糸口が見えてくる可能性があることについて理解が得られた。		
課題	<p>○単発ではなく継続的な取組みが必要であり、今回の伝道師派遣も含めて、地域活性化の契機のひとつとして地道に取り込んでいくのが望ましいと考えられる。</p> <p>○任意団体においては、補助金を獲得しにくいという事情もあり、資金面での継続性が深刻な課題となっている。</p> <p>○特に被災地では「安心安全」を主張するだけでなく、地域特有の食文化や環境づくりへのこだわりを複合的に訴求することが求められる。</p>		
今後の方針	<p>○地域活性化統合事務局としても、国の地域活性化関連施策をはじめ、積極的な情報提供及びコンサルティングを行っていく。</p> <p>○希望する自治体には、金丸伝道師に限らず、個別テーマに相応しい伝道師を派遣することも視野に入れ、引き続きサポートを行っていく。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	地域課題解決の仕組み	相談主体	銚子青年会議所
派遣伝道師	浅尾 均	ブロック名	首都圏ブロック
相談内容	<p>千葉県銚子青年会議所は市や市商工会議所等とともに、地域課題を解決するためのワークショップの開催等を検討している。</p> <p>そこで、伝道師派遣制度を活用し、地域課題解決の具体的な方法(課題設定方法、課題への取組方法)について、伝道師の講演及び伝道師と参加者との意見交換を行いたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成26年2月27日(木)</p> <p>浅尾伝道師による講演会(ワークショップ形式)(参加者:銚子青年会議所、銚子市観光協会、銚子市役所、銚子信用金庫他)</p> <p>《テーマ》「銚子に残された未来… まちの生き残りをかけて」</p> <p>・内容</p> <p>①講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光をテーマに観光客数のデータ等を使用しながら説明。 ・地域活性化の事例紹介 (1)鋸南町…スタンプラリーや写真撮影会等のイベント開催 (2)太海(ふとみ)…エコツアーを企画 (3)匝瑳市…サーファー、地元の人で観光についてワークショップを開催 <p>・総括</p> <p>②グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションの流れ 自己紹介⇒銚子の良いところ、悪いところをポストイットに書く⇒書いたものを観光や農業等に分類⇒これをもとに10年後の銚子を見据えて議論⇒まとめ⇒発表 <p>③講師から講評</p>		
成果	<p>○成功・失敗事例の紹介、参加者のワークショップを通じ、今後の目指すべき方向性や取り組むべき課題を明らかにすることができた。</p>		
課題	<p>○今後の地域活性化計画を作成する上で、市、関係団体等が情報を共有し、また意思疎通を図りながら整備を進めていくことが必要である。(現在は、関係団体間の連携がうまくいっていないため)</p>		
今後の方針	<p>○地域からの要請に応じて、今後もコンサルティング等による支援を行っていく。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	地域資源のブランディング	相談主体	三重県志摩市
派遣伝道師	金丸 弘美	ブロック名	北陸圏・中部圏
相談内容	<p>○志摩市では、地域資源の高付加価値化、ブランド化を進めており、その対象となる資源の特性を、生産・加工・流通・情報発信に関わるすべての関係者がしっかりと理解し、その特性を活かした活用を図っていくことが必要である。そのために「地域資源のテキスト化」について進めていきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年5月28日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鵜方駅内の物産売場や、阿児特産物開発センター等を視察 <p>鵜方駅内の物産所では商品の配置に指摘。食品の隣に真珠を置いても一貫性がなく、良い売り場にはならない。生魚の隣にはその加工品を配置するなど、売り場に一連の流れを持たせる必要がある。売れる商品、売れない商品を見極め、売れる商品を目立つ位置に配置するよう心掛ける。ジャム、ジュースは地元の特産品を使った加工品としてありふれている。他の商品を考えるべき。アイスクリームは味も良いし、商品として期待できる。</p> <p>志摩いそぶえ会では、あかもくを使用したレシピを考案中である。あかもくとおからを混ぜて油であげたものを試作品として作成していた中で、魚のすり身を混ぜることで食感が良くなるかもしれないとアドバイスをいただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志摩市商工会での意見交換会 <p>高松市の丸亀商店街、富山市、飯田市等、具体的な地域活性化を行った事例を用いて説明をいただく。各地域による地域活性化の手法や、行政主導のもの、地域主導のもの等様々な事例についてご説明をいただいた。</p> <p>○平成25年5月29日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志摩市役所での意見交換会 <p>テキスト化を行った事例を紹介。常陸秋そば、茨城県小美玉市、飛騨高山の宿儺かぼちゃ等。地元の特産品を売り出す際、他の地域のものとう違うのか。ただ美味しいだけでは伝わらない。どのような歴史背景があり、どのような栽培方法で、どのような栄養価があり、どのような調理方法がある等説明できなければならない。さらに、それを手に入れるためにはどこに連絡すればよいか、そこまで確立することで商取引として成り立つ。そのためにテキスト化を行う必要性があることをご教示いただいた。</p>		
成果	<p>○行政、商工会、地域住民を巻き込んだ意見交換会を行うことで、それぞれの意識の向上に結びついた。テキスト化を行うメリット、その手法をご教示いただくことで、やるべきことが明確になった。</p>		
課題	<p>○地域住民の中には意識の高くない方も見えるので、その方々の意識をどのように高めていくか、テキスト化を行うにあたり、他地域の同様の名産品との違いをどこで差別化を図るか。</p>		
今後の方針	<p>○タウンミーティングを数多く開催することで、地域の方々の意識の向上を図る。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	映像制作による地域活性化	相談主体	富山県富山市、富山県中小企業青年中央会等
派遣伝道師	林 弘樹	ブロック名	北陸圏・中部圏ブロック
相談内容	<p>○富山では平成26年度末に北陸新幹線が開通することから、県外から富山地域へ足を運んでもらうことにより経済効果が期待されているが、一方で富山の知名度は全国的にも低く、プロモーションが不足している点を多方向から指摘されている。富山が一体となり富山の個性・特性などの魅力を広く周知した企画として地域・企業・市町村を巻き込み、新幹線開通から1年で動画サイトYou Tubeで100万回ダウンロード(再生)されるような映像を協働制作したい。</p>		
相談への対応内容	<p>平成25年6月26日(水)19:00～21:00 第1回 検討会 ○ブレインストーミング 1. 富山の魅力について、 2. 目指すべき未来の富山とは、 3. 富山のプロモーションから得るものとは ※検討会参加者が考えるイメージや理想像を発表し、意識の共有化を図った。 ○クリエイティブ プリーディング 1. タイトル: 2. 広告目的: 3. ターゲットと(ビジネス)チャンス ⇒誰に向けての広告なのか。 4. 現在のターゲットの意識 ⇒ターゲットはどうみているか。そもそも目的や課題を知っているか。 5. 広告によってターゲットに与えたい意識 6. 広告によってターゲットに与えたい意識のために最も有効な概念とは何か。 7. なぜターゲットはそれを納得するのか。 8. プラスαの刺激的なクリエイティブなアイデアはあるか。 ※企画目的・コンセプトを検討会参加者からの議論により整理された。 ○映画「ふるさとがえり」の制作実例の紹介 平成25年6月27日(木)10:30～12:00 富山県観光課協議 ○新幹線開通までに行わる、PRイベントのスケジュール確認を行った ○本企画の紹介と協力依頼を行った</p>		
成果	<p>○伝道師自身が手掛けられた心の合併プロジェクト 映画「ふるさとがえり」を題材として、地元で行う映画・映像制作により情報を外に発信するだけでなく、共通目標により地域が一つになるという取組み実例をご紹介いただいたことで、検討会の出席者が成功イメージを共有できた。</p>		
課題	<p>○新幹線開通までに、「何故、富山のプロモーションを行わなければならないのか」、「富山のプロモーションを行うことで何が生み出されるのか」という基本コンセプトに係るイメージを検討会参加者で共有する必要がある。 ○映像制作において県内横断的に人・場所・予算の協力を仰ぐため、組織体制を構築する必要がある。</p>		
今後の方針	<p>○検討会終了後にワーキンググループを定期的で開催し、体制・事業内容・スケジュールなどを協議していく。当面は事業目的を明確にしたうえで、月1回程度の検討会を開催して事業を進めていくこととした。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	まちづくり／地域コミュニティ	相談主体	三重県志摩市
派遣伝道師	林 弘樹	ブロック名	北陸・中部
相談内容	<p>○志摩市では、平成25年8月に「新しい里海のみち宣言」を行い、「新しい里海創生によるまちづくり」の推進を市の重点施策としている。「新しい里海創生によるまちづくり」を推進するためにも、今回、社会に出ることが目前となっている高校生を中心とした市民に、一人ひとりの生きてきた環境の原型を洗いだし、これからの生き方とまちづくりの関係性について「見える化」することにより、地域の魅力を構築し、地域活性化につなげ、また高校生に故郷を再確認し、故郷を守り、生かす当事者であることを意識してもらうため、映画製作を通じたまちづくりを続けている映画監督の林伝道師より「生きる」をテーマに討論会を行っていただきたい。</p> <p>また来年市制10周年を迎えるにあたり、市民参加型で自分やまちの未来について考え、そのことを映像等で表現し志摩市として共有するものを作成する企画があり、当該企画の布石としてもこの討論会を行いたい。</p>		
相談への対応内容	<p>《討論会「生きる」～10年後のものがたり～》 (1)平成26年1月28日(火) 14:00～15:00 志摩高校生徒、教職員、保護者等約250人が参加 (2)平成26年1月29日(水) 14:30～15:30 水産高校生徒、教職員等約60人が参加 ○「生きる」ということを軸に、様々な出会いを通じて人生がどう変わっていくのか、これからの未来をどう創っていくのか、これからの生き方とまちづくりの関係性についてお話しいただく。 ⇒「生きる」とは「創造する」こと。「創造する」とは、「こういう自分でありたい」、「こんな未来がいい」というように、イメージ(意図)していくこと。意図することはみんなそれぞれ違うが、その全員のイメージが近づいて繋がっていくことで、そのイメージが現実化、「見える化」する。志摩のまちも昔からこういう形であったわけではなく、こういうまちにしたいと意図することで少しずつ作られてきたもの。 ○岐阜県恵那市を舞台に林伝道師が手掛けられた映画「ふるさとがえり」を題材として、イメージが現実化する事例を紹介いただく。 ⇒地域がひとつになるために、自分たちのまちの未来をどんな形にしたいのかという物語を一部の人だけでなく、市民全員が何らかの形で関わって映画を作ろう、という思いから映画ができた。映画の製作にはお金、時間、労力もかかり、最初は無理なわけない、意味がないと言われることもあったが、たったひとりの思いから、あきらめずに少しずつ仲間を増やし、5年間で5万人以上の仲間を集めて全国の人たちからも応援してもらってできたもの。 ○「生きていく」ことの裏腹にある、自分が「生かされている」ということについてお話しいただく。 ⇒志摩というまちに生まれ、家族がいて、学校の仲間がいて、先祖がいて、いろんな人たちとの出会いがあって、支えられながら生きている。感性や価値観を作ってくれているのは自分ではなく、いろんなものを浴びて、与えられて、生かされて、それがあって人間の土台になっている。これから先、自己実現に向けて本気で夢に向かったとき、いろんな人の恩恵を受け、支えられ、自分の今があることに必ず気付くはず。日々いろんなことを楽しみながらいろんなものを浴びることが大切。</p> <p>《教員等関係者とのワークショップ》 平成26年1月28日(火) 15:30～17:00 林伝道師、志摩高校生徒、教職員、市職員等15名が参加 ○討論会を踏まえ、今後の自分の生き方、まちのあり方等について活発な議論を交わした。 ⇒自己実現に向けて何かをやらうとするときに悩んだり葛藤したときは、本当にできないのか、それが事実なのか若しくは自分の解釈なのかを自分に問いかけることが大事。自分ができないと思わない限りは、可能性だけは無限大であり、自分の心のあり方をどれだけ強く持てるかで壁を越えられる可能性がある。</p>		
成果	<p>○社会に出ることが目前となっている高校生の抱えている未来への不安や、高校生とまちづくりとの間に距離があることを認識することができた。 ○どんなまちにしたいのか、みんなが幸せと感じることは何なのかなど、これからのまちの未来をイメージし、つなぎ合わせていくことで見えてくることを討論会を通して認識することができた。</p>		
課題	<p>○討論会を通して高校生に自分が生きてきた故郷を再認識してもらったが、高校生がより前向きに生きるために、また、まちづくりの当事者であることを意識してもらうために、多様な世代の人と触れ合う機会を持つことができるまちづくりへの参加を積極的に推進していくことが重要。 ○討論会を行ったことで見えた高校生の考えや想いを今後の志摩市のまちづくりに生かすためにも、行政だけではなく、まち全体が、志摩の未来をイメージし、共有し、取り組んでいく必要がある。</p>		
今後の方針	<p>○今回の討論会の成果を基に、高校生をはじめとした若者を中心に未来を創造できる次世代育成の事業につなげる。 ○今後、新たに市民とまちづくりをつなぐ具体的な取組が進展し、再度要請があった場合は、コンサルティングの実施や伝道師の派遣を検討する。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	地域活性／地域コミュニティ	相談主体	立山町
派遣伝道師	山口 祥義	ブロック名	北陸圏・中部圏ブロック
相談内容	立山町は、人口規模が小さい割に同規模の他市町村に比べ小学校数は多く、現在休校中である立山芦峯小学校について維持管理費の町費負担が大きいため、立山町役場は近隣住民や関係者等に理解と協力を求めながら取壊しや売却も視野に今後の利活用を検討したいと考えている。小学校の利活用について立山町役場と地元住民が理解を深める必要があるため官民両方の視点を持つ地域振興の専門家である山口伝道師を相談員としての派遣依頼があった。		
相談への対応内容	<p>平成26年3月16日(日) 旧立山芦峯小学校、立山芦峯公民館</p> <p>13:00～13:30 立山町及び立山芦峯小学校の概要説明(30分)</p> <p>13:45～14:45 立山芦峯小学校の現地視察(1時間)</p> <p>15:00～15:45 住民協働による旧校舎利活用の事例紹介(45分) ○山口伝道師による地域活性についての講話</p> <p>16:00～18:00 立山町役場・芦峯寺集落との地域活性化懇談会(2時間) ○小学校施設の利活用についての意見交換</p> <p>平成26年3月17日(月) 立山町役場 会議室</p> <p>9:00～11:00 立山町と今後の取り組みについて検討(2時間) ○学校施設利活用について立山町関係課による今後の方針確認 ○第2回伝道師派遣についての検討</p> <p>11:10～11:40 派遣活動のまとめ(30分) ○学校施設利活用について、山口伝道師による住民協働の講話</p>		
成果	○今回の伝道師派遣により第三者を交え議論が交わされた結果、学校施設跡地の利活用方法や運用について、地元住民と立山町役場間の方向性を見出し、体育館や職員室、一部の教室は災害時において地元住民の避難場所として利用することを確認し、試行的に県や大学法人などに対し教室を倉庫として貸し出すことを地元住民と立山町役場で合意した。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○施設管理における責任者の所在(鍵の管理など) ○貸出料金の算定 ○中長期の施設利活用についての地元住民との合意形成 		
今後の方針	○今回の伝道師派遣により、試行的に施設貸出を実践することにより施設利用に関するニーズや多分野における活用の可能性を地元住民と立山町役場双方で確認していくことになったが、次回の懇談会では地元住民からのアイデアを取りまとめた利活用提案をもとに議論を行う。今後の方針としては地元住民と立山町役場が意見交換を重ねて中長期の活用案を模索していく。		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	中心市街地活性化	相談主体	山口県周南市
派遣伝道師	阿部 真一	ブロック名	中国ブロック
相談内容	<p>○平成25年3月に周南市中心市街地活性化基本計画を認定していただいたところ。郊外の大型店舗の立地により徳山駅周辺のデパートの撤退や商店街の空き店舗が増えてきている。これからの周南市が取り組むべきことを商店街振興の地域活性化伝道師阿部真一さんにご指導いただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年9月5日 15:30～17:00 周南市の県周南総合庁舎さくらホールにおいて、周南市職員及び商店街関係者約80名を集めて講演会を実施した。「地元商店街の役割 ～次世代につながるまちづくり～」と題して2時間程度講演。講演内容としては、商店街は採算性とコミュニティを大事にしなければならない。イベントの開催は人集めに役立つが、個店に魅力がないと素通りしてしまう。商店街の原理原則である採算性に着目し魅力ある商品開発に努める。空き店舗対策と若手企業家の育成を組み合わせる。住民にアンケートをとりニーズの把握を行い実践する。具体的には、子育て支援や買い物弱者支援を実践した。魅力ある個店の集合体である商店街を目指す。など実体験をもとに商店街活性化の取り組みを紹介した。</p> <p>○平成25年9月5日 17:00～17:30 阿部伝道師による指導、意見交換等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の活性化は人材育成に尽きる。 ・あらかじめ次に空き店舗になりそうな店を商店街組合で把握しておき、そこにどのような店を入れるか検討する。 ・半径500m以内に住んでいる人たちの生活を支える。 ・5～10年先まで実施予定の事業を明確にし、順番にニーズ調査を行う。 ・イベントの開催は商店街活性につながらない。 <p>との意見をいただいた。</p>		
成果	<p>○講演会参加者に頂いたアンケートによると、実際に取り組んできた経験に裏打ちされた話なので具体的で分かりやすかった。魅力的で、参考になった。説得力があった。商店街を活性化するヒント、キーワードを頂いた。など多くの方に商店街の役割を理解していただくことができた。</p> <p>○実際に民間主導で商店街振興に取り組んでいる立場からの意見・指導を受けることができ、今後の商店街及び中心市街地の活性化施策等について今後の事業実施等の指針とすることが出来た。</p>		
課題	<p>○商店街の活性化には行政主導は元より商店街関係者のやる気、熱意が必要である。また、商店街の集客方法は、「単発的なイベントの開催」から「魅力ある個店づくり」へのシフトが必要である。徳山の商店街は規模が大きく、関係者のまとまりが重要と思われる。</p>		
今後の方針	<p>○今回は、関係者多数に対しての指導(講演)であったので、今後は、必要に応じ個別指導として対応する。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	農商工連携	相談主体	島根県奥出雲町 奥出雲町商工会
派遣伝道師	横石 知二	ブロック名	中国ブロック
相談内容	<p>○奥出雲町では、商工会、役場が主体となり、JA等と連携しながら、農商工連携に取り組もうとしている。ブランドとしては、奥出雲仁多米というコシヒカリの認知度が高いが、他の産業にどのように取り組むかと考えた中で、農商工連携の構想が出てきた。農商工連携は食の取組になりがちだが、町内には伝統産業としてのそばもあり、木工の加工技術がある。また、地域にある資源で、まだ価値が見出されていないものも多数ある。地域にある資源の価値をもう一度見直していくことも含めて、広い意味での農商工連携をとらえて事業を進めたいと考えているが、地域の盛り上げ方をどうやればいいのかと悩んでいる。長続きする事業展開をしたいので、アドバイスをいただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年10月31日(木) 13:00～17:00 地域活性化応援会(島根会場)の個別相談会 横石伝道師から、以下のとおり助言。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロデューサーの選定が重要である。商工会や行政等の内輪の人間が行うのか、外部から呼んでくるか。内輪だけでは、新しい風を起こすのは難しいため、外部から招き入れた人材が活動できる仕組みを作った方が、これからの時代だと思う。地域おこし協力隊など国の事業も活用されてはどうか。 ・上勝町では、最初にインターンシップ制度を利用し、町に興味のある人材を短期で入れて、その中で特定の人を企業が採用したり、地域おこし協力隊として地域を盛り上げている。広く公募をして人材を集めるよりは、ターゲットをしぼり、その人の性格や志を理解したうえで事業に携わってもらう方が成功する事例は多い。 ・地域おこしに興味のある人材が活動ができる空間を作ってはどうか。面接だけでは人物は分からない。一緒に活動をして、採用する人を知ることが必要。 ・SNS等で情報共有を行うのも面白い。ものすごいスピードで情報が共有されるため、わざわざ会議を開いていちいち報告をすることもなくなる。10万人以上の集客のある交流拠点があれば、お客の動き方を共有するだけで、商売ができるようになる。 ・第1ステップとして、人材交流やプロデューサーを見つけることが必要。第2ステップは「起業」だが、住民へのサービスとなる事業であれば、町が全額起業支援をするべき。起業家は3年以内に独立して事業をやっているくらいの経営感覚を持っていることが必要。 		
成果	<p>○伝道師からプロデューサーの重要性や人材の発掘方法等、自らの経験を踏まえたアドバイスを実施。相談者が今後、農商工連携だけでなく定住対策等、地域活性化を進めていく上でのヒントを得ることができた。</p>		
課題	<p>○農商工連携の検討段階であるため、事業の具体化、人材発掘のための施策展開が必要。</p>		
今後の方針	<p>○地域から要請があった場合は、コンサルティングの実施や伝道師の派遣の検討を行う。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	医療・福祉	相談主体	岡山市
派遣伝道師	田城 孝雄	ブロック名	中国ブロック
相談内容	<p>○高齢者が住みなれた地域で安心して暮らすことができる地域包括ケアの実現のためには、どのような視点でどのような取組を実施していくべきか、ご指導いただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成26年1月23日(木) 13:30～16:50 田城伝道師による講演及び田城伝道師をコーディネーターとしたパネルディスカッションの開催</p> <p>【講演】「地域で支える医療・福祉を考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策や(都市・住宅)計画の部局も一体となって行うべきであり、縦割りではなく横串で実施することが重要であること、地域活性化には地域医療を守ることが必要であること等について説明。 ・今後の課題について解説(2025年問題、団塊の世代はこれまでの高齢者と価値観や権利意識が違う等)。 ・その他事例紹介(三重県の医療ネットワーク、尾道方式ケアカンファレンス等)。 <p>【パネルディスカッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田城地域活性化伝道師のコーディネートにより、下記の項目について総合特区指定自治体(広島県、香川県、徳島県、岡山市)間での情報共有・意見交換を行った。 ・特区制度を活用して解決した事項について ・地域の医療・福祉の充実のための、税制、財政、金融支援などの自治体独自の取組内容及び運用してみてわかった課題について ・職員のキャリアパス育成など組織内の体制整備についての考え方 ・取組の推進に向けた、地域住民や医療・福祉関係者等への理解を深める活動内容 ・地域の医療・福祉の取組の目標が達成されたとき、地域経済、地域住民の生活は、具体的にどのように変わるか <p style="text-align: right;">等</p>		
成果	<p>○伝道師から地域包括ケア推進のための医療介護連携の方法について、尾道方式などの具体例を踏まえ指導や助言を受けることができ、相談者が現在取り組んでいる医療介護連携の課題が明確になるとともに、今後の取組みのきっかけとなった。</p>		
課題	<p>○在宅医療に取り組む医師・看護師等マンパワーの不足や異職種間における認識のずれ、専門知識の差、多職種間での情報共有の方法</p> <p>○市民に対する在宅医療・介護についての普及啓発</p> <p>○庁内の関係課といかに連携して取り組むか</p>		
今後の方針	<p>○地域から要請があった場合は、コンサルティングの実施や伝道師の派遣の検討を行う。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	農山漁村活性化・地域間交流	相談主体	高知県室戸市
派遣伝道師	友廣 裕一	ブロック名	四国ブロック
相談内容	<p>地元の若手事業者と都市住民・事業者とのネットワークを構築し、協働の仕組みをつくることで、室戸市の食材(姫あわび、土佐の赤牛等)の販路を拡大させて、「室戸市」の認知度を上げ、地域の活性化につなげていくための取組みとして、平成25年5月に室戸市の若者が「むろとまるごとBBQ」と題し、都市部から有志を呼び、室戸市の食材をまるごと味わってもらうことで地域活性化につなげようとするイベントを開催したところであるが、継続的なネットワークの構築までは至らなかった。</p> <p>今回、奈良県内の一流シェフ数名を市内に招いて、地元住民に地域食材の可能性を感じてもらうためのイベントを開催するにあたり、地域おこしのスペシャリストである地域活性化伝道師をお招きし、継続的なネットワークづくりのための手法や現時点における課題の抽出等を行い、地域の活性化につなげていきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年8月5日(月)14時～16時 イベント視察 5月に行われたイベント「むろとまるごとBBQ」は、県外在住のシェフ等を室戸市に招き、室戸市の食材の良さを感じてもらい、地元の生産者との関係性を構築する目的で催されたが、今回のイベントは、「一流シェフ×室戸の幸」と題し、地元住民が雑魚として扱っている食材(メジカ・シイラ・サメ等)をシェフの手で調理をし、地元住民に食材の可能性を感じてもらおうとする趣旨のもと行われた。参加者は主催者側含め100名程度で、シェフは主に奈良県・高知県出身の9名であった。奈良県のシェフを招いたのは、奈良県は海なし県であり、室戸市の海産物をアピールできるとする狙いがあり、伝道師の紹介である。</p> <p>○平成25年8月5日(月)17時～18時半 イベント終了後の振り返り会議 ※伝道師はアドバイザーとして参加 (参加者: イベント開催の中心となった地元の若者, 地元の生産者・参加シェフの一部、室戸市、伝道師) 各々がイベントの感想・成果・課題を述べる。</p> <p>○平成25年8月6日(火)9時～11時 今後の取組に向けた相談会 ※伝道師はアドバイザーとして参加 (参加者: イベント主催者3名、室戸市、高知県、伝道師) 前日のイベント、そして5月に行われたイベントを含めた課題の抽出、今後の取組についての方針を主な議題とした会議を実施。</p> <p>○平成25年8月6日(火)12時～14時 生産現場等を視察 (参加者: 生産者、室戸市、伝道師) 姫アワビの養殖場(海洋深層水研究所施設)、土佐備長炭生産現場等視察し、生産者の声を聞く。その後、地元産品の販売所であるキラメッセむろと(道の駅)の視察を行った。</p>		
成果	<p>○イベント中は、生産者とシェフが名刺交換をする等、交流の場として一定の効果があつた。 →5月のイベントの成果として、地元の椿油をヘアスプレーとして売り出す動きがあつたり、メジカのピザやコンフィが東京で売り出されるようになったりと効果が出てきており、今回のイベントにおいても徐々に効果が出てくるものと期待される。</p> <p>○趣旨の一つである地元住民に地元食材の可能性を感じてもらえる場となった。 →地元の漁師が雑魚として扱っているメジカを使った料理は好評で、商品としての価値を示すことができたのではないかと。</p> <p>○平日の昼に行われたイベントであつたが、参加者が100名程度おり、注目度が高い。 →生産者、シェフだけでなく、栄養士、自営業者を始め、多様な参加者がいたのは、今後の可能性を感じるものであつた。</p>		
課題	<p>伝道師等による課題の抽出 ○今後の商品開発等を行う上で、試験的に加工品を作ることができる場がない。 ○情報発信コンテンツが不十分である。 ○イベントを継続する上で、シェフを再び招く場合、日程が平日になってしまうのが難点(飲食店は基本的に平日が休みのため)。 ○生産者とシェフが繋がっても、実際に販売となる場合は、JAや漁協等との話し合いも必要。</p>		
今後の方針	<p>伝道師による全体の総括</p> <p>現在は、地元の若者が中心となって行われているイベントで、地元と県外をつなぐ一定の役割が出来ている。効果は徐々に出てくるものであるから、今後も継続してイベントを行っていくべきである。地元の食材を加工品にし、県外へ販路を拡大させる等、具体的な目標を決め、官民一体となった取組を検討することとなった。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	商店街振興、景観整備について	相談主体	香川県丸亀市
派遣伝道師	斉藤 俊幸	ブロック名	四国ブロック
相談内容	<p>○ 香川県丸亀市ではこれまで、まちなか定住の促進についての検討を行ってきた。平成23年度に実施した「丸亀市まちなか定住促進対策に関する調査」について、平成24年度に調査報告書がまとめられたことを受け、平成25年度以降は、まちなか定住促進施策の具体的な検討に入ることにしている。</p> <p>○ こんぴら街道の整備に係るワークショップ、富屋町のアーケード撤去後のまちづくりに係る検討会、丸亀町TM推進協議会など、地域が一丸となった検討を進めているところであるが、これら地域住民、商業者、商工団体等が参加する会議における検討をさらに具体化・推進するための、専門的な知見による助言を得るため、伝道師の派遣を依頼があった。</p>		
相談への対応内容	<p>【平成25年10月10日(木)】</p> <p>○15:00～17:00 丸亀市内視察 (太助灯籠、富屋町商店街、中府町周辺、丸亀街道ゾーンポケットパーク、秋寅の館) ⇒伝道師による所見及び助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の空き店舗が多く、深刻な状況である。 ・歴史的な資産や丸亀城など市街地周辺に魅力的な資源は散在している。 ・市街地と港が近い地形や、島しょ部や山間部を有する地勢を生かし、都市部と周辺部の連携が有効ではないか。 ・場所貸しや加工場の設置等によって、空施設や空スペースの有効活用を図ることを検討してはどうか。 ・国の地域活性化施策を活用した事業の実施も検討してはどうか。 <p>○18:00～20:30 講演会「地域再生の現場から」 (於:スペース114 参加者:富屋町商店街関係者を中心に約20名) ⇒国の事業を活用した地域活性化についての実例紹介 ⇒意見交換</p>		
成果	<p>○他の地域における地域活性化の実例を踏まえ、都市部と周辺部との連携や地域資源の活用についての助言が得られた。</p> <p>○国の地域活性化事業について、活用可能の可否を含めた検討を行っていくこととなった。</p>		
課題	<p>○今後、都市部と周辺部との連携をどのように進めていくか。</p> <p>○国の施策の積極的な活用</p>		
今後の方針	<p>○今後も丸亀市における活動内容の把握に努め、国の施策に関する助言や地域活性化伝道師の派遣も含め、必要に応じた助言・支援等を行っていく。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	道の駅(海産物直売所等)のブランド化推進等	相談主体	愛媛県八幡浜市
派遣伝道師	中澤 さかな	ブロック名	四国ブロック
相談内容	<p>平成25年4月に移転リニューアルオープンした海産物直売所「どーや市場」を中心とした水産業の振興や地域経済の活性化を図るために、「どーや市場」における八幡浜水産物のPR及び情報発信の方法や消費者目線での現状の販売方法の問題点の指摘、「どーや市場」全体のブランド化の推進など、今後の八幡浜市の水産業の振興を図るうえでのノウハウを御指導頂きたい。</p> <p>また、「どーや市場」に隣接して開業した産直・物販・飲食施設である「アゴラマルシェ」についても同様に御指導頂きたい。</p>		
相談への対応内容	<p>【平成25年10月11日(金)】</p> <p>○16:00~17:00 講演会に先立ち、道の駅「みなと」視察 ※「みなと」は、海産物直売所である「どーや市場」、産直・物販・飲食施設である「アゴラマルシェ」、情報発信・地域活動の拠点である「みなと交流館」等からなる。</p> <p>○17:00~19:00 中澤伝道師による講演会「どーや市場への提案」 (於:八幡浜市水産物地方卸売市場 2F多目的室 参加者:「どーや市場」関係者を中心に約40名) 主な内容は以下のとおり。 ・集客エンジンの配置 ・販売パフォーマンスの強化 ・イトインの演出 ・その他</p> <p>【平成25年10月12日(土)】</p> <p>○9:30~12:00 「どーや市場」、「アゴラマルシェ」について、関係者と共に細かく視察を行い、販売・展示方法等についてアドバイス、質疑応答を行った。</p>		
成果	<p>○初日に行われた中澤伝道師による講演会は、八幡浜市から事前に要望のあった、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八幡浜水産物のPR及び情報発信の方法や消費者目線での現状の販売方法の問題点 ・「どーや市場」や「八幡浜水産物」全体のブランド化の推進 ・集客を維持していくための方法やイベント <p>等のポイントに的確な回答を提示するものであり、今後、すぐに活用できる提案を含む実践的なものであった。また、講演後も活発な質疑応答が行われ、参加者にとって不安や疑問を解消する貴重な機会となった。</p> <p>○二日目に行われた、視察においては、「どーや市場」の各店舗、「アゴラマルシェ」を視察し、展示方法や品質管理の方法について具体的なアドバイスを行った。</p>		
課題	<p>伝道師からの課題の抽出(「どーや市場」について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○PR及び情報発信のためには、専任の広報担当者を置くことを検討してはどうか。 ○現在、空調設備(クーラー)が設置されていないが、夏場の魚介類の品質管理の観点から空調設備の設置を検討してはどうか。 ○産地表示の徹底や小分けパックでの販売などを検討してはどうか。 ○週末のバーベキュー以外にも来客者が食事をとれるような対応を検討してはどうか。 		
今後の方針	<p>○今後のPRの方向性・・・「どーや市場」を含めた道の駅「みなと」の更なる発展のためには、選択と集中、競争優位性の確保等が必要。四国一の規模の魚市場を有する八幡浜市においては、魚介類が最大の強みであり、今後も新鮮な魚介類を前面に押し出したPRが有効。</p> <p>○魚市場が休みとなる土曜日の対応 (八幡浜市からの相談内容)・・・隣接している魚市場が毎週土曜日休みのため、魚市場関係者の間では伝統的に土曜日が週に唯一の休み。そのため現在、「どーや市場」では土曜日は半数程度の店舗しか営業しておらず、土曜日の来客者が減少している。何か良案はないか。(伝道師からの提案)・・・少人数の家族的経営を行っている各店舗に唯一の休みである土曜日の営業をお願いすることは困難。また、土曜日営業のためだけに新たに従業員を雇用することも困難。関係者の合意が得られれば、思いきって土曜日は定休日とするのも選択肢の一つ。周知を徹底すれば来店者にも理解していただけるのでは。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	農村集落振興等	相談主体	愛媛県今治市
派遣伝道師	友廣 裕一	ブロック名	四国ブロック
相談内容	<p>今治市玉川町では、昨年、「玉川サイコー実現化計画」を策定し、NPO法人玉川サイコーと今治市玉川支所が協働して玉川を楽しく元気にする取組を行っている。昨年度は、「こんな玉川知らなかった 玉川マップ」を刊行、ホームページ「玉川ネット」と連動して地域住民に向けた地元情報の発信を行っている。本年度も玉川ダムカレープロジェクト、玉川万葉の森再整備、サイクリスト誘客事業、鈍川地区都市農村交流（農水省に交付金提案中）、龍岡地区過疎地域自立支援事業（総務省に交付金提案中）など新規事業を多く予定している。しかし、地域は人口減少と高齢化の進行、基幹産業である農業の低迷などで課題が山積している。事例として今治市玉川地区を挙げたが、今治市の山間部地域では、これらの課題が共通している。こうしたことから地域活性化伝道師の豊富な経験を語っていただき、玉川をはじめとして山間部地域で活動を行っている人たちを元気づけるとともに、個別の事業の課題についてアドバイスや地域づくり、農村集落振興のためのワークショップなどをお願いしたい。</p>		
相談への対応内容	<p>【平成25年10月17日(木)】 ○15:30～18:30 今治市玉川町内視察(万葉の森、玉川ダム、森のともだち農園、神子之森集落等) 森のともだち農園:生産者から地元の特産品として生産、販路の拡大を図っている「ブルーベリー」、「まこもだけ」の状況について聴取 神子之森:関係者から移住希望者に対する住居提供等の現状について聴取。</p> <p>○19:00～20:30 友廣伝道師による講演会「“未利用地域資源”の使い方」 (於:今治市玉川支所大ホール 参加者:「がんばる地域活性化協議会連合体」関係者を中心に約60名) 主な内容は以下のとおり。 宮城県石巻市(牡鹿半島)における、 ・鹿の角を使ったハンドメイドアクセサリー制作プロジェクト“OCICA” ・漁協女性部有志グループ「マーメイド」との協働のプロジェクト</p> <p>【平成25年10月18日(金)】 ○9:30～12:00 NPO法人玉川サイコー関係者との意見交換・相談会 (於:今治市玉川支所会議室 参加者:「NPO法人玉川サイコー」メンバー、今治市職員) 主な内容は以下のとおり。 ・NPO法人の今後の運営方法 ・地域活性化のためのイベントの企画・運営等</p> <p>○13:00～15:00 今治市玉川支所職員と下記を視察。伝道師から適宜アドバイスを行った。 ・玉川地区における新たな集客を目指し整備された「鈍川すっぴん美人の足湯」 ・ダム湖での湖上サイクリング ・地産地消を推進する今治市の産直市場「さいさいきて屋」(直販所売上げ全国2位)</p>		
成果	<p>「NPO法人玉川サイコー」は平成25年に設立された新しいNPO法人である。今回、伝道師と様々な意見交換を行うなかで、今後の運営方法等について多くのアイデアを得ることができた。</p>		
課題	<p>伝道師からの課題の抽出 ○ウォーキングやカレー販売等のイベントにおいて、参加料や販売における価格設定は重要。ボランティアで皆が材料を持ち寄る形式では、会員の間で不満が出てくるのが予想され、持続的な実施は難しい。材料等はきちんと対価を支払い仕入れるべき。また、長く活動を続けるには、事業に参加した会員へ対価を支払うということも必要。そういった経費を見越した価格設定を考えていただきたい。</p>		
今後の方針	<p>伝道師による総括 ○「NPO法人玉川サイコー」の活動に、もっと多くの会員に関わってもらうには、NPOとしてやりたいこと、各会員がやりたいことの重なる部分で、それぞれが役割を負っていくことが必要。それぞれに役割があれば、参加者も増えるのではないかと。会員向けに料理やウォーキング等のイベントを企画し、それぞれの関心事項、やってみたい事等について話し合う場を設けることも一案。 ○いきなり大きなことを始めるよりも、小さくてもよいので、顔が見える人同士から初めること、そして長く活動を続けていくことが重要。続けていくことで、徐々に大きな活動となる。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	薬用植物(高付加価値作物)の栽培について	相談主体	鹿児島県肝付町
派遣伝道師	柴田 敏郎	ブロック名	九州圏・沖縄県
相談内容	<p>○鹿児島県肝付町では基幹産業である農業において、さつまいも、施設野菜等が主な作物であるが、農作物の輸入増加、産地間競争の激化等により農家は非常に厳しい経営状況にある。このような課題を解決し、産業・雇用を創出するため、町で薬用植物事業基本計画を策定し、高付加価値作物になり得る薬用植物カンゾウの試験栽培に取り組んでいるところであり、以下の点について助言をいただきたい。</p> <p>①試験栽培中の薬用植物カンゾウの生育状況について、生育評価をお願いしたい。</p> <p>②カンゾウの収穫作業の機械化について、同地域に普及している既存収穫機を使った試験的な堀上げ作業について御指導いただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年9月9日(肝付町高山)</p> <p>①カンゾウの生育状況について、柴田伝道師による現地調査及び意見交換(14:00～12:30)を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古い葉の黄化について 定植後1か月の苗の活着後、土壤水分不足により蒸散額と吸収量のバランスが崩れたことによると推察される。今後実証が必要。 ・強風が吹いた場合の落葉について 窒素系肥料レベルをかなり上げた結果、太い茎が形成され、風になびくことなく風圧を直接受けたことが原因と考えられる。今後の作付に当たっては風の当たり方も考慮する必要あり。 <p>○平成25年9月10日(肝付町内之浦)</p> <p>②カンゾウの収穫作業の機械化について、柴田伝道師による現地調査及び意見交換(8:30～14:00)を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴボウ収穫用パイプロルトデガーによる試験掘り 爪の間に根、ストロンが土と一緒に塊状に絡みついたため、作業中に運転を止めて人力で除去する必要があり、非効率。 ・サツマイモ収穫用デガーによる試験掘り 根を途中で切断してしまうケースが多く収量減となるため使用不可。 ・サトイモ等根菜類収穫用のパイプロスーパーソイラーによる試験掘り マルチをかけたままで掘り取り作業が可能であり、人力で地上部を引っ張り上げることができ、一番実用性が高い。 		
成果	<p>○各圃場ごとに生育評価を行うことにより、圃場の生育状況に応じた対処法について助言が行われ、試験栽培における今後の見通しが明らかとなった。</p> <p>○既存の複数の収穫期を使用した掘り取り実験により、今秋見込まれる収穫への対応方針が明らかとなった。</p>		
課題	<p>○各圃場の生育状況については、今回の対処を踏まえ、引き続き実証が必要。</p> <p>○今回の掘り取り実験の栽培品は、生育が貧弱であったため、今後想定される生育が良好な栽培品の掘り取りについて、来年秋に向けて更なる検討が必要。</p>		
今後の方針	<p>○地域からの要請に応じて、今後もコンサルティングや地域活性化伝道師の派遣等による支援を行っていく。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	農林水産業・観光	相談主体	阿蘇市等
派遣伝道師	米田 雅子	ブロック名	九州圏・沖縄県
相談内容	<p>○阿蘇北外輪山の一部(阿蘇市西湯浦)における大規模な草原再生プロジェクトの実現に向けて、西湯浦牧野組合の構成員も参加している阿蘇草原再生連絡調整会議メンバーとの意見交換の場や総合特区関係自治体との意見交換の場等を通して、効果的な伐採林の活用と資金還流の仕組みについて「林建協働」の立場からの助言及び規制緩和のアイデアや阿蘇草原再生のための支援措置の具体的な内容等について、関係自治体担当者等へ助言をもらいたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年12月12日(熊本県熊本市、阿蘇市)</p> <p>①熊本県森林組合連合会との意見交換(13:10~13:40) 意見交換の場で、草原の維持と森林の整備の双方ともにメリットがあるような工夫や協力が必要であるという意見や、公道、民道、国有林林道、砂防施設管理道等、異種の道を結びネットワークを形成し、相互に有効利用するという提案があった。</p> <p>②総合特区関係自治体との意見交換会(15:00~17:00) 米田伝道師より、「地域から規制改革の声をあげよう 農商工連携と林建協働」をテーマに講演いただいた後、意見交換を行った。特に、草原と森林の再生や保全が、Win-Winの関係になるように、草原関係者と森林関係者が協力していくことの重要性や、総合特区指定自治体が連携し、情報を共有した上で、国への規制緩和等の提案や意見を挙げていくことの必要性についての助言があった。</p> <p>○平成25年12月13日(熊本県阿蘇市)</p> <p>③西湯浦地区視察及び西湯浦牧野組合等との意見交換(9:00~11:30) 西湯浦牧野組合等との意見交換の場で、米田伝道師より、輪地切りを始めとした大規模野焼き作業パイロット事業について、森林関係者との連携強化、伐採林の活用の重要性、また、そのための山と麓をつなぐ森林作業道の必要性等について助言があった。</p> <p>④阿蘇草原再生連絡調整会議での意見交換(13:30~15:30) 米田伝道師より、特区及び地方からの規制緩和の提案の意義の説明とともに、草原と森林双方にメリットがあるような規制緩和も含めた様々な施策を、阿蘇特区を活用して実現していくことの重要性や、将来的に地域の人々だけでも草原維持ができるような基盤として、草原再生と森林整備の双方に役立つ森林作業道等の異種の道整備の必要性、各自治体の関係部署のみならず様々な関係者の協力の必要等について助言があった。</p>		
成果	<p>意見交換等により現在の阿蘇特区が抱える課題を関係自治体等で共有することができた。また、これまで内閣府規制改革会議委員等を歴任してきた米田伝道師より、これまでの事例と併せ地域の実情を踏まえた助言が行われたことで、総合特区としてだけではなく、阿蘇地域全体の草原再生についての今後の方向性を見出すことができた。</p>		
課題	<p>阿蘇北外輪山の一部(阿蘇市西湯浦)における大規模な草原再生プロジェクトを始めとする阿蘇の草原再生への実現に向けて、指定市町村、熊本県を始めとした関係者との連携を一層密にして取り組む必要がある。</p>		
今後の方針	<p>地域からの要請に応じて、今後もコンサルティングや地域活性化伝道師の派遣等による支援を行っていく。</p>		